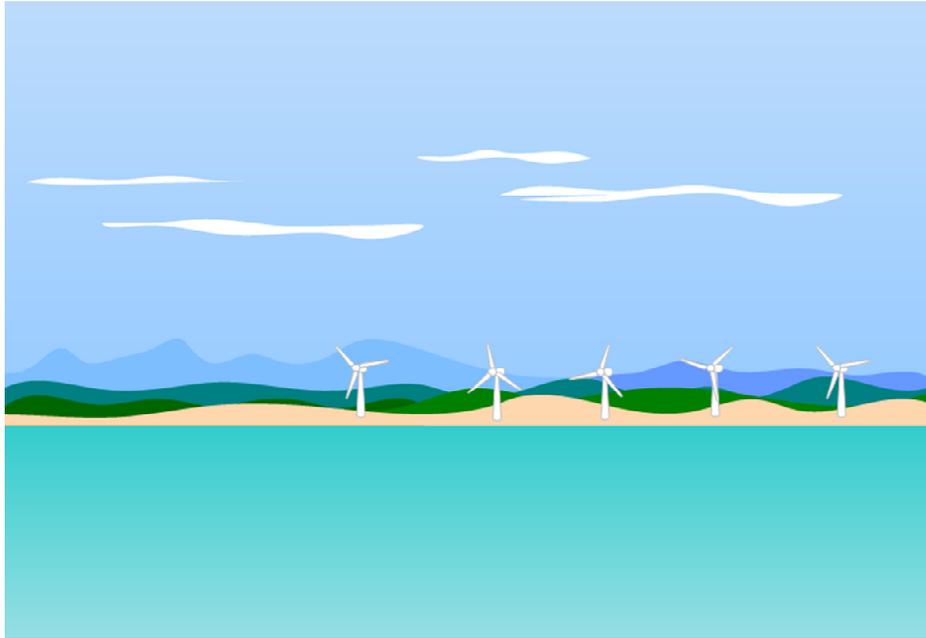




第3次江津市環境基本計画年次評価レポート

令和6年度（2024）の評価



江津市市民生活課

I はじめに

今日の環境問題は生活型公害の拡大、廃棄物問題、地球環境問題や東日本大震災に端を発したエネルギー問題などにみられますように、さまざまな事柄が絡み合い複雑多様化しております。そうした課題に果敢に取り組み、持続可能な社会の構築が今まさに求められています。

また、昨今の地球温暖化の影響による記録的豪雨の発生や40℃近い真夏日が連日続くなど、私たちの身の回りでその影響の凄まじさを感じるものが年々多くなってきています。

こうした状況の中、市民が健康で快適な生活を営むため、環境の保全は不可欠です。地球規模での自然環境を守り、次世代へ引き継ぐことは行政、事業者、市民が自らのこととして解決していくことが必要不可欠です。こうした状況を踏まえ、江津市の環境政策の根幹を成す環境基本計画を令和5年3月に策定しました。計画期間は、令和5年度から令和14年度の10年間です。

第3次江津市環境基本計画年次評価レポートは、江津市の環境の状況等を明らかにするとともに、計画に掲げた目標の達成状況等の進捗状況を点検・評価します。また、市民・事業者の環境への関心を高め、環境への取組を推進することを目的とし、毎年発行することとしています。

めざす環境像

～ 江の川と日本海 美しい山の緑をとこしえに ～

『江の川は「江津」の名前の由来であり、江の川とともに発展してきた江津市のゆるぎないシンボルです。この江の川が注ぐ日本海もまた波子・浅利・黒松の海浜に代表されるように本市を特徴づける大切な資源です。母なる江の川の流域を形成し、中国山地に続く本市の南に広がる山々には、断魚溪・観音滝や千丈溪などの貴重な自然資源もあり、そこに生育・生息する生き物とともに本市の重要な環境資源です。

これらの自然の中でともに育まれた文化は、長い時間をかけて人々の暮らしとともに赤瓦の特徴的な景観を産んできました。その一方で、現在の私たちの生活は、多くの資源を消費し、様々な化学物質やごみ、二酸化炭素を環境中に排出しています。私たちはこのような社会のあり方を今一度「わがこと」として考え、江の川や日本海、美しい山々とともにあるべき環境を次世代に、そして永遠（とこしえ）に引き継いでいくことが求められています。』

II 江津市の環境への取組

第3次江津市環境基本計画の計画期間は、令和5年度から令和14年度の10年間です。毎年計画に掲げた目標の達成状況等の進捗状況を点検・評価して行きます。

本年度は令和6年度の状況について評価検証します。令和6年度は計画期間の「2年度」とし、第3次江津市環境基本計画の評価基準で評価しました。

【評価の判断】

☆：目標値に達した。

◎：中間年度に達した。

○：基準年度（単年度目標基準）より良くなった。

△：基準年度（単年度目標基準）と同程度又は基準年度（単年度目標基準）より良いが、前年度より悪くなった。

×：基準年度（単年度目標基準）より悪くなった。

1. 自然環境 ～豊かな自然を守る～

江の川や日本海、緑の山々などの豊かな自然をそこに棲む多くの生き物とともに守り、人と自然が共生するまちをめざします。

【施策の柱と施策・取組】

施策の柱	施策・取組
1. 動植物の保全	●野生動植物の保全 ●野生動植物の生息・生育基盤の保全 ●外来生物への対応
2. 森林の保全	●森林管理の推進 ●循環型林業の推進
3. 農地の保全	●農業の有する多面的機能の発揮 ●有機農業の推進 ●地産地消・6次産業化の推進 ●有害鳥獣被害への対応
4. 自然とのふれあい	●自然環境の保全・活用

【指標と目標値】

目標設定項目	基準年度 R3 (2021)	1年目実績 R5 (2023)	2年目実績 R6 (2024)	中間年度 R9 (2027)	目標値 R14 (2032)	R6 評価
江の川アユの遡上数 (浜原ダム魚道)	329 千匹	980 千匹	492 千匹	400 千匹	400 千匹	☆
	前年度より減少したが、目標値は上回った。					
再造林面積 (10年間延べ)	0ha	0ha	0ha	10ha	20ha	△
	R6は主伐未実施。					
間伐の実施面積 (10年間延べ)	5.16ha	14.52ha	22.06ha	25ha	50ha	○
	引き続き計画的な間伐の実施を行う。					
有機農業実施面積	54ha	54ha	54ha	63ha	72ha	△
	作付面積の拡大に向けて取り組んでいく。					
産直品の売り上げ	96 百万円	112 百万円	132 百万円	100 百万円	100 百万円	☆
	新型コロナの収束、大田仁摩間の山陰道開通による来客数が増加した。					
学校給食での産直率	35.3%	35.3%	20.5%	40%	40%	×
	猛暑による生育障害による不作が影響した。					

(評価について)

江の川アユの遡上数については、昨年より減少しているものの継続して取り組んでいる効果が見られました。

森林整備については、伐期を迎えた森林の主伐と再造林からの保育を計画的に実施していくことで推進を図っていきます。

産直品の売上については、山陰道が徐々に開通しており、その効果により客数が増加した。また、販売戦略・出荷対策により出荷量が増加しました。引き続きPRや利用者の利便性向上の取組を行っていきます。

学校給食での産直率については、猛暑による生育障害のため不作となり影響が出ました。天候による影響は避けることができないが、農業の担い手確保や小学生の農業体験等の授業を通じて市内農産物の普及も併せて行っていきます。



2. 生活環境 ～環境にやさしい暮らしをする～

川や海の水や空気がきれいでごみも少なく、環境への負荷が小さい循環型の持続可能なまちをめざします。

【施策の柱と施策・取組】

施策の柱	施策・取組
1. 環境負荷の低減	<ul style="list-style-type: none"> ●大気環境の保全 ●水環境の保全 ●悪臭の防止 ●騒音振動の防止
2. 適正な生活排水・廃棄物処理	<ul style="list-style-type: none"> ●適正な生活排水処理 ●適正な廃棄物処理

【指標と目標値】

目標設定項目	基準年度 R3 (2021)	1年目実績 R5 (2023)	2年目実績 R6 (2024)	中間年度 R9 (2027)	目標値 R14 (2032)	R5 評価
大気汚染測定値 (SPM) (環境基準値 0.1 mg/m ³)	0.014 mg/m ³	0.010 mg/m ³	0.010 mg/m ³	0.010 mg/m ³	0.010 mg/m ³	☆
	短期的及び長期的の評価による環境基準を達成。					
公用車における次世代自動車の導入推進	10.8%	12.5%	12.5%	30%	70%	○
	前年と増減がなかった。					
江の川の水質 (河川 A 類型 BOD2 mg/ℓ以下)	0.7 mg/ℓ (R2:2020)	0.8 mg/ℓ (R4:2022)	0.6 mg/ℓ (R4:2023)	0.7 mg/ℓ	0.7 mg/ℓ	☆
	短期的及び長期的の評価による環境基準を達成。					
市内河川水質の環境基準達成率 (河川 AA 類型 BOD1 mg/ℓ以下)	100%	100%	100%	100%	100%	☆
	市内 6 河川について、いずれも環境基準を達成した。					
海域水質 (波子海水浴場) (海域 A 類型 COD2 mg/ℓ以下)	1.5 mg/ℓ	1.7 mg/ℓ	1.7 mg/ℓ	1.5 mg/ℓ	1.5 mg/ℓ	×
	環境基準は達成した。					
自動車騒音測定値の環境基準達成率	100%	100%	100%	100%	100%	☆
	国道 9 号 (嘉久志町) で実施、環境基準を達成した。					
公害苦情件数の低減	11 件	9 件	7 件	9 件	7 件	☆
	中間年度目標を達成した。					

汚水処理人口普及率	55.1%	57.4%	58.7%	59.6%	61.8%	○
	汚水処理施設整備構想、下水道全体計画の見直しにより中間年度 63.8%から 59.6%、目標値 78.4%から 61.8%へ見直しを行った。 下水道の整備により基準年度よりも率が上昇したが、合併処理浄化槽の人口減少が汲み取りの人口減少よりも多く率が伸び悩んだ。					
廃棄物排出量	7,376 t	6,955 t	6,752 t	6,574 t	6,076 t	○
	基準年度より 2.9%の減量となった。					
資源リサイクル率	19.6% (R2:2020)	18.1% (R4:2022)	17.6% (R5:2023)	21.2%	21.9%	×
	前年度より 0.5%の低下となった。					
マイバッグ持参率	88.8% (R元:2019)	87.6%	87.5%	92%	95%	×
	基準年度より 1.3%低下した。					

(評価について)

大気汚染測定値、江の川の水質、市内河川水質の環境基準、自動車騒音測定値については、いずれも目標値を達成しており、江津市の自然環境は良好な状況が保たれています。海域水質については、目標値には至っていませんが環境基準は下回っています。

公害苦情件数については、前年度の 9 件から 2 件の減少となりました。公害苦情の内容としては、廃棄物の投棄（不法投棄）の件数が 4 件と大部分を占めており、日常生活の中での配慮等が求められます。

廃棄物排出量については、基準年度より 8.5%の減量でした。一方資源リサイクル率については、基準年度より 2%、前年度 18.1%から 0.5%低下しています。プラスチックごみの燃やせるごみへの転換や、リサイクル意識の低下などが原因と考えられます。今一度、循環型社会の形成に向け、リサイクルの推進を一層図る必要があります。



3. 快適環境 ～きれいできもちのよい環境を守る～

まちの緑化や環境美化に努め、歴史と文化に育まれた赤瓦の景観を守り、快適でうらおいのあるまちをめざします。

【施策の柱と施策・取組】

施策の柱	施策・取組
1. 緑化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●公園・緑地の整備 ●まちの緑の整備
2. 景観の保全	<ul style="list-style-type: none"> ●自然景観の保全 ●街並み景観の保全 ●歴史・文化景観の保全
3. 環境美化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●環境美化の推進 ●空家対策

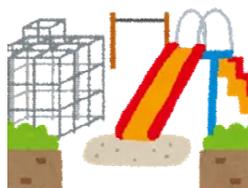
【指標と目標値】

目標設定項目	基準年度 R3 (2021)	1年目実績 R5 (2023)	2年目実績 R6 (2024)	中間年度 R9 (2027)	目標値 R14 (2032)	R6 評価
空家の有効利用 (10年間延べ)	17件	17件	21件	50件	100件	○
	空き家の登録数が減少傾向にある。					
市民ボランティア清掃申請者数	1,546人	1,370人	1,410人	1,750人	2,000人	×
	前年度より2.9%増加した。					

(評価について)

空家の有効利用については、利用数が登録数を上回っている状況が続いており登録数が減少傾向となっているため前年並みとなりました。空き家バンクの長年の取組により利用が定着しています。今後も空家の有効利用が進むよう、空き家の登録の促進をさらに進めていく必要があります。

市民ボランティア清掃の申請者数については、微増傾向にあります。広報にて活動状況を紹介するなど令和7年度から啓発活動をしています。



4. 地球環境 ～かけがえのない地球を守る～

地球環境問題を「わがこと」としてとらえ、カーボンニュートラルに向けて一人ひとりが生活の中で実践していくまちをめざします。

【施策の柱と施策・取組】

施策の柱	施策・取組
1. 地球温暖化対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●地球温暖化対策の推進 ●省エネルギーの取組
2. 再生可能エネルギーの活用	<ul style="list-style-type: none"> ●再生可能エネルギーの導入促進 ●再生可能エネルギーの普及・啓発

【指標と目標値】

目標設定項目	基準年度 R3 (2021)	1年目実績 R5 (2023)	2年目実績 R6 (2024)	中間年度 R9 (2027)	目標値 R14 (2032)	R5 評価
江津市の温室効果ガス排出量	190千t-CO ₂	176千t-CO ₂	194千t-CO ₂			
	343千t-CO ₂ (R元:2019)	355千t-CO ₂ (R3:2021)	363千t-CO ₂ (R4:2022)	162千t-CO ₂	134千t-CO ₂	×
基準年度より2.1%増加した。江津市推計は5.8%増加した。						
市の事務事業に伴う温室効果ガス排出量	3,633t-CO ₂	3,302t-CO ₂	3,065t-CO ₂	2,827t-CO ₂	2,155t-CO ₂	○
	基準年度より17.8%削減した。					
道路及び公園施設の照明に占めるLEDの割合	20%	53%	55%	50%	75%	◎
	道路・公園（屋内施設）のLED化が進んだ。					

(評価について)

江津市の温室効果ガス排出量については、基準年度比17.8%の増加となりました。昨年まで家庭部門が大きく減少していましたが、今年度は基準年度比13.6%増加となり、また、産業部門製造業において基準年度比7.3%増加となり全体の排出量を押し上げています。

市の事務事業に伴う温室効果ガス排出量については、基準年度比18.6%、前年度から7.2%の減となりました。電気の使用にとまなう二酸化炭素排出係数の改善による二酸化炭素排出量の削減による効果が大きいものです。

道路及び公園施設の照明に占める LED の割合については、
基準年度から増加しており、新設や公園施設有料施設屋内照明
については、LED 化が引き続き進んでいます。



5. 環境保全活動 ～環境について考え行動する～

市民・事業者・市がそれぞれ意識啓発を図り、連携して主体的に環境に配慮した実践活動に取り組むまちをめざします。

【施策の柱と施策・取組】

施策の柱	施策・取組
1. 環境保全活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●地域コミュニティや江津市地球温暖化対策推進協議会との連携 ●環境保全活動の推進
2. 環境学習の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●地域での環境学習 ●学校での環境学習 ●人材や団体の育成

【指標と目標値】

目標設定項目	基準年度 R3 (2021)	1年目実績 R5 (2023)	2年目実績 R6 (2024)	中間年度 R9 (2027)	目標値 R14 (2032)	R5 評価
市民のボランティア清掃申請者数 【再掲】	1,546人	1,370人	1,410人	1,750人	2,000人	×
	前年度より2.9%増加した。					
小中学校の「緑のカーテン」実施校	8校	3校	2校	11校	11校	×
	周知不足により減少しています。					
小中学校での環境学習の実施（地域・企業連携）	0校	1校	1校	3校	7校	○
	昨年と同数。					

（評価について）

小中学校の「緑のカーテン」実施校については、周知不足もあり減少傾向にあります。学校での活動実績はありますので、取組の輪を広げていきます。

令和6年度については、小中学校では1校でしたが、高校、保育園で取り組みました。



発行日：令和7年12月

江津市市民生活課

〒695-8501 江津市江津町1016番地4

TEL：0855-52-7936

メールアドレス：shiminseikatsu@city.gotsu.lg.jp